

埼玉佛教

平成28年1月 第205号

平成28年1月5日 発行

No.205

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂4-13-18

一般財団法人 埼玉県佛教会

電話 (048) 861-2138

FAX (048) 864-6649

発行人 萩野 映明

http://saibutu.net

印刷所 関東図書株式会社



「第37回埼玉県佛教徒大会」関口亮樹大会実行委員長あいさつ（蓮田市・真浄寺）

新年挨拶	2
宗教法人研修会案内	2
受章報告	3
第8回埼玉佛教文化講座案内	3
「埼玉青」40周年記念大会	3
第37回埼玉県佛教徒大会	4
県佛大会義捐福祉募金報告	7
地区仏教会だより	7
・妻沼地区仏教会	7
・浦和仏教会	8
・鴻巣市仏教会	8
・東松山・滑川仏教会	9
トピックス	9
「埼玉連」研修旅行	9
「解放同盟」視察交流会	10
「埼玉同宗連」	10
・現地学習会	11
・第16回知事要請行動	12
・人権政策確立要求中央集会	12
・狭山事件市民集会	12
・第35回埼玉人権フォーラム	12
会員寺院だより	13
・慈光寺（ときがわ町）	13
・金澤寺（鳩山町）	13
寺院名簿訂正	13
寺院が知っておきたい法律知識	14
年賀名刺広告	15
訃報	16
事務局日誌	16
今後の予定	16
幼児画展（予告）	16
編集後記	16



一般財団法人埼玉県佛教会

会長 萩野 映明



希望に満ちた新春をお迎えの事とお慶び申しあげます。

さて、昨年を振り返りますと、日本国内では、各地の寺社仏閣に油のような液体が撒かれるという事件が相次ぎ、文化遺産の被害が拡大していることは大変残念でなりません。

また、世界に目を向けますと、アメリカとキューバが54年ぶりに国交を回復し対立の歴史に転換点を迎えたという明るいニュースが伝えられた一方、チュニジア博物館襲撃事件により日本

人を含む尊い命が奪われ、また、つい先日はパリで多くの人がテロ行為の犠牲になりました。

昨今、テレビを観ますと、僧侶や寺院を題材にした番組が多く見受けられます。さらに、仏教や仏像をはじめとして、朱印蒐集ブームや、坐禅や写経体験が流行っていたりと、お寺に由来する関心が高まっている時節でもあります。我々宗教者は、この好機を活かして、より一層衆生を心のやすらぎへと導いて参りましょう。

本年が皆様にとって幸多き一年になりますよう祈念申しあげ、新年のあいさつといたします。



【平成27年度 宗教法人研修会】

- 平成28年2月2日(火) 13:30~16:00 熊谷会場 熊谷地方庁舎・大会議室
 - 平成28年2月9日(火) 13:30~16:00 さいたま会場 埼玉佛会館・1階
- (1) 埼玉県宗教連盟の概要等について (15分)
 - (2) 埼玉県における基本的な事務手続きについて (105分)
 - (3) 税務の基礎知識「マイナンバーと宗教法人の税務について」(70分)

東日本大震災で被災した宗教法人に係る指定寄附金制度について(概要)

東日本大震災で被災した宗教法人の建物等の復旧のために、宗教法人が募集する寄附金で、次の要件を満たすものとして所轄庁の確認を受けたものについては、寄附者が所得税又は法人税の税制上の優遇措置（法人の場合…寄附金の全額を損金に算入できます。）を受けることができます。

埼玉県における本制度に関するお問合せは・・・

埼玉県総務部学事課総務・宗教法人担当までお問い合わせください。

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 [電話 048-830-2568]

平成二十七年 秋の叙勲

受章おめでとうございませす

瑞寶双光章

鬼頭 宗良 師

(さいたま市・一乗院 更生保護功労)

瑞寶双光章

塚田 有祥 師

(越谷市・迎福院 更生保護功労)

第8回埼玉佛教文化講座

入場無料・要申込

とき 平成28年2月19日(金)

開場・午後1時 開会・午後1時30分

閉会・午後3時30分(予定)

ところ 埼玉会館(さいたま市浦和区高砂4-13-18)

講演 「暦って何だあ!!」―暦を理解しましょう―

講師 成川 文應 先生(日蓮宗 宣要寺住職(江戸川区))

お申込方法:同封別紙(チラシ裏面)の申込欄に必要事項をご記入の上、FAXにてお申込ください。

[FAX 048-864-6649]

40周年記念大会

埼玉県佛教青年会

平成27年9月30日(水)、埼玉

県佛教青年会(萩原裕史会長)

は「創立40周年記念大会」を浦和ワシントンホテルを会場に開催した。当日は県内各地から青年僧侶ならびに関係者の他、県外からの参加を含めて約120名が参集した。

大会実行委員長の三浦清志師

(前会長)が開会あいさつを

行った後、記念講演が行われた。

講師に慶應義塾大学文学部・立



正大学仏教学部非常勤講師の正木晃氏を講師に招き「お坊さんのための「仏教入門」と題して60分にわたる講演をした。続いて宮寺守正師(県佛理事)がコーディネーターを務め、金峯山修験本宗前宗務総長の田中利典師、曹洞宗永見寺住職の葛西好雄師を交えパネルディスカッションが行われた。

※詳細は、後日発行の「埼玉佛青」機関紙「菩提樹」誌面に掲載予定。

第37回埼玉県佛教徒大会

去る10月5日(月)、第37回埼玉県佛教徒大会が蓮田市真浄寺を会場に開催された。今大会は、蓮田市仏教会(関口亮樹会長)が主管となり、埼玉県東部地区仏教会が後援した。

大会テーマは『70億人共生の智慧〜宗教、民族、すべての壁を超えて〜』で参加者は県内各地から約300名。

関口亮樹実行委員長の開会のことばで開会。続いて、真浄寺が運営する黒浜幼稚園園児による献灯献花の後に法楽が厳修され、木村盛雄副会長が主催者を



代表してあいさつした。続く来賓挨拶では、全日本仏教会・総務部部長の奈良慈徹師並びに、蓮田の中野和信市長からごあいさついただいた。

続く記念講演では、講師にインド禅定林住職(天台)のサンガラトナ・法天・マナケ師を迎え『インドの一隅から世界を照らす』と題し、ご講演いただいた。

以下、講演内容一部抜粋―
皆さんが思っている『インドといえば仏教』というのは歴史

上のことで実際とは異なります。インドは人口12億5千万人の8割がヒンズー教徒、1割がイスラム教、残りが仏教やジャイナ教で仏教徒の数は1千万人程度とされています。今から7、800年前にイスラム教の侵略によって仏教が崩壊に近い状態になりました。

それでは、どうしてジャイナ教ではなく力があつたとされる仏教の方がそのような状態になったのかを考えてみましょう。当時、僧侶社会と在家社会の間には大きな隔たりがありました。なぜなら、在家社会の人々は社会還元として多くの人々が社会福祉の為に人生を費やしていた。一方、我々僧侶の方はお寺に籠もり、托鉢の時にだけ在家社会へ下りてくるような生活を送っていた。だから僧侶と在家が近づくのはほんの一瞬。

その機会に在家の人たちに法を説くこともなく、会話も交わさず、関わりが全く生まれなかつた。そんな僧侶社会と在家社会が二分された所に一神教のイスラム教が入ってきたために仏教が排除されました。

原始仏教が発生して、上座部仏教、大乘仏教と発展していったのです。本来、お釈迦さまは、「誰しもが同じ境地に行ける」と説かれていたにもかかわらず、上座部仏教があまりにも僧侶中心の仏教で、尼さんや在家の人たちはさておきという状態になった。その状況を批判する形で大乘仏教が発生した。障害さ

れている尼さんや在家の人々が我々と同じ到達点に至ることができるようにサンガの敷居を低くしようと大乘仏教が出てきたのですが、今の大乘仏教の形態を顧みると祖師方が考えた大乘仏教がそこにはありません。むしろ、僧侶が本来あるべき立場から簡単に転げ落ちやすいように逆の意味で敷居を低くしてしまっているのではないかと考えます。今一度、お釈迦さまが考



(サンガラトナ・法天・マナケ師)

えた大乘仏教を具現化する必要があるのではないかと思えます。私の尊敬するアンベードカル氏は、インドの憲法を制定したとしてインドでは神様のように崇められている。インドの国章は三頭の獅子とその下に法輪が描かれたもの。そして国章の一部分を担っている法輪はインドの国旗の中央部にも描かれている。これは仏教との関わりの中での国章であり、アンベードカル氏が仏教徒であったという証でもあるのです。国政としては憲法を制定した人として尊敬されているけれども、仏教徒としての彼は仏教を通して自分達の間としての想いを興させてくれた。

あるいは、人間が本来あるべき道に戻してくれた一宗教者として捉えられている。

さて、インドには今もお職業による身分制度、カースト制が厳然として根強く残っており、この先も存続していくと思われまます。まもなく常任理事国入りするのではといわれているインドですが、現在もなお『浄と不浄』の概念を尊ぶ国なのです。

ガンジス川こそがその権現なのです。ガンジス川に入れば自分の罪状が洗われ浄化されると考えている。昨今のITで一旗揚げた成功者であっても低カーストの人たちは全く評価されない。そのため能力の高い人たちは、自分の能力を試しに国外へと出ていって一旗揚げるといふ実態があり、実はインドにとって大きな損失にもなっているのです。

アンベードカル氏もまた私同様、カーストにおけるマハール(不可触民)の家庭に生まれた。アメリカやイギリスに留学して、

数々の博士号を取得して帰国したが、低カーストであるためインド国内では評価されない。彼は不可触民ゆえに人として扱われないという状況を乗り越えて、人生をカースト制の撤廃に捧げた。

ところが、ヒンズー教の教典『マヌ教典』がカースト制度を肯定しており、カースト制度が不可触民への過酷な扱いの根拠となっているが為はその運動が一向に実を結ばない。そこで彼は、様々な宗教の勉強をした結果、仏教が掲げる「平等」という点に惹かれ、1956年10月14日にアンベードカル氏と共に50万人もの人たちがヒンズー教から仏教に改宗した。以来インドには仏教徒が増えつつある。

ところが彼は、改宗から2ヶ月後に他界してしまい、仏教の教えを広めることはできなかったという。

私の父はアンベードカル氏の片腕として働いていた。人々は

仏教を正しく知らないままに仏教に改宗していた。そんな状況を憂慮していた父が出会ったのが、ちょうど訪印していた天台宗僧侶の堀沢祖門師。父は、アンベードカル氏の遺志を受け継いで仏教を復興してもらいたいという願いから一人息子の私を堀沢師に託したのだという。これが昭和46年、わずか9歳にして比叡山に上山するきっかけとなったご縁です。



ところで、私にとっての日本とは聞かれると、比叡山での厳格な規律の中での修行生活と通学ということだけ。15年の歳月は私をインド人でありながら日本人にしまった。参籠生活の間は周りの人たちについていくのが精一杯で、祖国を思い出



(大会記念品)

す余裕はなかった。両親が居るのに完全にインドとの関係が適切

れてしまった。昭和60年、インドに帰国するも「帰国」ではなく「訪印」だった。まず両親の話すヒンディー語が分からないので、師匠の通訳なしには親が何を言っているのかが分からない。親からすれば、自分達の老後の面倒を見てくれるはずと期待して日本に送ったのに身体だけはデカくなったが期待に応えてくれず、最初のイメージからかけ離れてしまったと思ったに違いないでしょう。

最後に、布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧の六波羅蜜で最初に出てくる『布施』について考えてみましょう。

例えば、昨今のボランティア活動をみると、相手が何を欲し

ているのかを考える前に、自分達の持っている思い(イメージ)を果たすことがボランティアであり社会福祉であるという考え方が一般化している。我々のイメージと現状には大きな隔たりがあるという事実を忘れてはいけません。ネパール地震の救援活動を計画していた時のこと。最初は救援物資として一番必要なものは食糧であろうと考えて、3日分の米、油、塩、豆、香辛料を集めた。ところが、現地の人たちが望んでいるものは、豆や香辛料のような贅沢品を含んだものではなく、最低限のもので長期にわたって食べられるものと聞いて、急遽、米と油と塩だけに変更して5日分の食糧を持って行きました。訪れたネパールの寒村で、数日ぶりの食糧でさっそく炊事に取りかかる村人たちがとった行動は、我々への『もてなし』でした。自分達が生きていくために不可欠な食料を削ってまでも我々をもて

なしてくれたその行動を見て涙しました。このように『布施』とは功德を求めて他人に施すものではないのです。不要品や余剰品をシェアするということでもありません。自分にとって本当に不可欠なものを喜んで手放してまでも、人助けをすることこそが本来のありかたなのです。そして、その行為は施す側にも受ける側にも莫大な果報をもたらします。自分の執着や我を捨て去り、性善説をもう一度掘り起こしていただいて、ボランティアではなく布施としての行為を行ってください。

第二部のアトラクションは、『ジャワ島のガムラン音楽と舞踊』。インドネシア・ジャワ島にはヒンドゥー教、仏教、イスラム教など宗教が多元的に共存す



(針生すぐりさん)

る。その歴史を貫いて今日まで伝え継がれてきた青銅のオーケストラ「ガムラン」の演奏を堪能した。

続く舞踊の部では「動く佛像」とも称される舞踊を中島未未さんと針生すぐりさんが演じた。ガムランの音色と共に観客は、癒しのシャワーを浴びているかのような独特の雰囲気にもまれ魅了された。



(中島未未さん)

来年の呉佛大会は埼玉県西部地区仏教会が担当となり、坂戸・鶴ヶ島仏教会の主管により開催される予定となっております。閉会行事で関口亮樹大会実行委員長から坂戸・鶴ヶ島仏教会の光地英隆会長と事務局の山崎英隆師へ佛旗バトンが手渡された。また光地会長から、開催日は平成28年11月16日(水)、JR埼



京線・川越線、東武東上線の川越駅前新しくできたウエスタ川越を会場に開催を予定していることが紹介された。

県佛大会義捐福祉募金報告

大会当日、参加の皆さまからお預かりした義捐福祉募金の合計金額は226、749円になった。募金は講師サンガラトナ・法天・マナケ師が代表のパンニヤメツタ協会へ10万円、5万円を蓮田市社会福祉協議会へ。76、749円を埼玉県共同募金会蓮田支部を通じて「平成27年度台風18号による大雨等災害義援金」として寄託された。

地区仏教会だより

戦争殉難精霊

慰霊祭と法話の集い

妻沼地区仏教会

平成27年9月16日(水)、妻沼仏教会(吉田隆俊会長)傘下の妻沼地区仏教会の主催により、歓喜院本坊を会場に「戦争殉難精霊慰霊祭と法話の集い」が開催された。慰霊祭では、鈴木英全院主を導師に9名の式衆により法要が厳修され、20名程の戦没者遺族が焼香した。続く「法話の集い」では、村井惇匡師(東松山市・妙昌寺住職)が『いのちに合掌』と題して40分にわたる講演を行った。

以下、講演内容一部抜粋

今日は『いのちに合掌』というテーマを考えてみたいと思います。演題の「いのち」は敢えてひらがなで書いたのです。

い：は「胃袋」。よく食べられるということ。食べられるというところは胃腸が丈夫である。即ち生きることの証なのです。

の：は「脳」。良く覚えられ、この他に、良く考えられるということがあります。ち：は「血」。血液が全身に回るといふことで良く動けるといふこと。これらを合わせて考えて「いのち」となるわけです。よく食べて、良く考えられて、良く動けるといふのは、とても幸せなことなのです。

実は、私の祖父も戦死しておられますので、今日の慰霊祭に参加できたご縁は大変ありがたいものです。祖父が戦死したのは31歳の時、当時祖母は27歳のことでした。祖母が晩年を迎えた頃、視力が落ちて心細くなったのでしよう。祖母が私に言いました。「私は一生懸命生きてきて、まもなく80歳。私が亡くなった時に旦那さんに会えるかな、

私を分かってくれるかな、嫌われないかな」と。私は「亡くなつて向こうに行ったら、お釈迦さまが塩梅よくしてくれますよ。旦那さんと別れた時の年齢に戻してくれますし、必ず会えるから心配しなくてもいいですよ」と答えました。「だからといって、直ぐに行くことはないからね」と付け加えたのですが、祖母を置かずして旅立ちました。祖母の顔を見ると、とても穏やかに、優しく微笑んでいるように見えましたので、きつと会うことができたんだなと思いました。人間は、産声を上げてから、いつ亡くなるかは誰にも分からないのです。一般的に「余生」とは余りの人生のことを言いますが、与えられた人生「与生」と考えてもよいと思います。また、年を取ることを「老化」と書きますが、実際には朗らかな花と書いて「朗花」としてもよいでしょう。人は皆それぞれ違う花を持っています。世界に

一つだけの花を咲かせましょう。そのように感じることができれば自分の命を大切にすることができません。また他人の命も、亡くなつた人の命もありがたく思えてきます。それが手を合わせて感謝することなのです。是非、その気持ちを自分の周りの人たちに伝えてください。それが「いのちに合掌」という生き方なのだと思います。

結びに御霊の安らかならんことを、そして皆様が身体も心も穏やかでありますことを。また、皆様の「与生」において、益々、「朗花」現象が進むことをご祈念申し上げます。



浦和仏教会研修旅行

浦和仏教会

10月29日(木)～30日(金)に浦和仏教会主催(本間照常会長)の研修旅行を行った。本年、開通した北陸新幹線を利用し、富山方面への研修となった。ちなみに宿泊研修は初の試み。参加者は会員寺院及び協賛会会員の計11名。

初日、大宮駅を出発し富山駅に到着後、高岡へ移動、瑞龍寺を参拝した後、高岡大仏を参拝。参拝中に参加者の数人が地元富山テレビの取材を受ける。しかしながら、放映は後日に富山ローカルの為、放映の確認はできませんでした。その後、高岡地域地場産業センターを訪れた。高岡銅器の仏具や梵鐘、特産品が展示されていた。見学後に氷見温泉に宿泊、懇親をはかる。

2日目は五箇山合掌集落を訪問。日本昔話の世界に入り込んだような錯覚。日本の原風景と



(五箇山合掌集落)

はこんな感じなのかな。と、妙に親しみを感じる場所でした。続いて瑞泉寺を参拝。ご住職のご法話を拝聴し、境内の宝物館を見学した。その後、八尾曳山展示館を見学し、富山駅へ。北陸新幹線のお陰で身近になった北陸富山を満喫した二日間となった。

第18回わかる仏教講演会

鴻巣市仏教会

去る11月4日(水)、クレアこうのす大ホールにおいて、「第18回わかる仏教講演会」が開催

された。参加者約900名。主催は鴻巣市仏教会(馬場知行会長)、共催は鴻巣地区仏教研究会(関根和明会長)。講演会を心待ちにした参加者で会場は大盛況。小春日和も後押しした模様。第1部では和太鼓演奏が行われた。奏者の上田秀一郎氏と豊山太鼓「千響」のみなさまの演奏による音色は会場と身体一杯に響き渡り、身体の中が洗われる様な感覚に包まれた。演奏後の開会行事では法楽、主催者あいさつ、来賓あいさつ、来賓紹介が行われ、第2部の講演会に移った。

講演会は講師に臨済宗妙心寺派福聚寺住職で芥川賞作家の玄侑宗久師から『風流に生きる』と題して、お話をいただいた。「風流とは、ゆらぎ」であり、人がゆらいで重心をとりもどす様を指します。災害や事故など想定外の出来事に合うことも、ゆらぎで「風流」と話され、自然に向き合い、流され、進んでい

く人間の営みの大切さをお話しされた。

講演後に講師へ謝辞と記念品贈呈が行われ、閉会となった。



第21回仏教講演会

東松山・滑川仏教会

第21回を数える東松山・滑川仏教会主催「仏教講演会」が平成27年11月21日、東松山市文化センターを会場に開催され800名の仏教徒が集まった。

開会式は、大澤貫秀会長のあいさつで始まり、法要は担当の

浄土宗・羽根尾隆弘導師のもと加盟各宗派の代表が登壇し、行

われた。法要後にお導師様より

法話があり、最後に法然上人御

作のご詠歌をお唱え頂き、会場

は荘厳な雰囲気にも包まれた。ま

た、交通遺児援護金が今般も寄

贈され上田清司知事からの感謝

状が贈られた。

講演の部では、小説家でテレ

ビでもご活躍の荒俣宏氏を迎え、

「人生の埋蔵金」現役力と老人

力」と題して講演会を行った。

荒俣氏は、小説の他、博物学、

神秘学、風水、妖怪研究等、幅

広い知識で知られ、関連の著書

も数多い。今回は、「現役力と

老人力」をキーワードに映像を

使いユーモアを交えながらお話

しいていただいた。「老い」とい

誰もが避け難い、負のイメージ

を「老人力」という言葉に置き

かえ、積極的に評価するという

お話は、「老苦」への一つの



視点として、興味深く伺った。

先生の穏やかな人柄がにじみ出

るお話に聞き入るうちに、参加

者の「老人力」もレベルアップ

し、あつという間の一時間余で

あった。

開催にあたっては、平素より

会員寺院と親交のある業社や寺

族など50余名がスタッフとして

参加する。協賛業社の中には御

宝前の供花、来場者のお茶、記

念品の絵馬などを奉納する企業

もある。閉会後には慰労会も行

われ、スタッフ一同は親睦を深

めた。

(報告：東松山滑川仏教会事務局)



トピックス

埼玉県宗教連盟

「平成27年度研修旅行」

10月8日(木)から1泊2日

の旅程で「平成27年度「埼玉連」

研修旅行」(高橋慶宣理事長)

が実施された。参加者は43名で、

本会からは8名が参加した。今

回は、今年3月に長野駅—金沢

駅間が開通した北陸新幹線を利用し、

福井県にある曹洞宗大本

山・永平寺および真言宗智山派の古刹・瀧谷寺参拝ならびに金沢市内の観光を行った。

初日は8時30分に大宮駅に集合し北陸新幹線「かがやき」にて金沢駅まで移動。その後はバスに乗り換えて金沢市内にて加賀御膳の昼食をいただいた。昼食後は再びバスにて福井県の曹洞宗大本山・永平寺へ。永平寺では、当会から参加の宮寺守正理事の計らいによる特別参拝を行った。修行僧の先導で長い廊下と階段を歩き、まずは法堂の奥にある特別貴賓室の妙高台へ。特徴的な畳の配置や掛け軸に書かれた「拈華微笑」の意味などを説明していただいた。続いて、永平寺貫首が起居する不老閣、法話を拝聴するための大広間である光明蔵を見学し、一般寺院の本堂にあたる法堂へ。光明蔵が約300畳、法堂が約400畳とのことで、その大きさと洗練された様相はまさに壮観であった。その後は仏殿、大庫院、

山門、傘松閣の順に説明を受けながら参拝。永平寺では、三つの日と八のつく日に三八清掃という大掃除をするとのこと、参拝の途中では修行僧達の気合いの入った返事が響き渡る場面もあった。永平寺参拝の後は、山代温泉「ゆのくに天祥」に移動し、旅の疲れを癒して初日は終了。

2日目は、福井県三国町にある真言宗智山派の古刹・瀧谷寺を参拝。瀧谷寺は国指定の名勝庭園や国宝「金銅毛彫宝相華文磬」をはじめとした数々の文化財を有する三国町最古の寺院。受付を通り総門をくぐると、木々や苔の生い茂る参道が目の前に広がる。参道の先には、柴田勝家が寄進したという山門（鐘楼門）があり、非常に趣のある景色に参加者からは感嘆の声があがった。本堂大広間にて貝谷住職からご挨拶いただいた後は、御住職の先導で境内を拝観。美しい庭園を前に静かな時

を過ごした。また、宝物殿では室町時代の星図「天ノ図」や国宝「金銅毛彫宝相華文磬」などを間近で見学。残念ながら磬の音を聞くことは出来ないが、写真ではわかりにくい細かな文様まで見る事が出来た。

瀧谷寺参拝が終わるとバスにて金沢市内へ移動。金沢の台所「近江町市場」にて自由散策を行い、各々買い物や食事などを楽しんだ。最後に、昼食会場の加賀料理「秋月」にて懇親を深め、新幹線「はくたか」で帰路につき、大宮駅にて解散となった。



部落解放・人権政策

確立要求埼玉県実行委員会

「三重県実行委員会との視察交流会」

平成27年10月9日（金）から

二日間の行程で部落解放・人権政策確立要求埼玉県実行委員会（萩野映明会長）は埼玉県と三重県実行委員会との視察交流会を実施した。「解放同盟」からは小野寺一規氏、「埼玉同宗連」から備前島賢光監事（前議長）と事務局の小池康宏主事補が参加。その他、埼玉人企連や行政を合わせて10名が参加した。

朝、東京駅に集合し名古屋を経由して三重県津市にある三重県人権センターに向かった。人権センターは、平成2年に

「人権県宣言」を議決しその趣旨に沿って、人権尊重の思想を広く県民に普及し、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくしていくための拠点施設とし



て設置されたとのこと。館内には常設展示スペースがあり、被差別の立場に置かれた人々の姿から差別の事実を伝え、その中で差別を克服していく歩みと人権尊重の思想が紹介されている。見学後、同センター会議室にて三重県実行委員会の堀忍委員長、埼玉県実行委員会の福田恵一副会長がそれぞれ開会あいさつを行った。続いて、自己紹介を行い三重県における部落解放運動の取組が説明され、各団体の取組の紹介が行われた。



翌日は、フィールドワークとして伊賀市にある、いがまち人権センターを見学し、隣保事業についての説明を受けた。当日は土曜日にもかかわらず、学校での学習について行けない子どもが補修授業を受けていた。

以前から「埼玉同宗連」の取り組みの中で同和問題や部落差別を取り上げた研修を実施しているが、今回のフィールドワークを通じて、未だ地域に根強く残っている差別の実態を目の当たりにできたことは、部落差別の歴史的事実を確認できたばかりか、「解放同盟」の取り組みの重要性を再認識できた実り多き研修であった。

「埼玉同宗連」 『現地学習会』

10月28日（水）に『平成27年度現地学習会』を開催した。今回のテーマは『福田村事件』。

講師は部落解放同盟千葉県連合会事務局長の鎌田行平氏。各教宗派から約20名が参加した。

千葉県野田市にある福田公民館に集合し、先ず「埼玉同宗連」議長の栗原英樹師が開会の挨拶をした。続いて鎌田氏より『福田村事件』についての講演が行



われた。

講義を聞いた後、参加者は各自の車に分乗し鎌田氏の案内で、当時の事件現場付近の三ツ堀の渡しから香取神社一帯などを訪れフィールドワークを行った。

また事件発生時の時代背景から容疑者の量刑を軽くしたり、天皇陛下による恩赦などもあり、事件そのものが忘れ去られたが、平成15年、現場近くの円福寺大利根霊園に犠牲者の慰霊碑が建立された。その慰霊碑を見学し全員で追悼した。

フィールドワーク終了後に現地で「埼玉同宗連」副議長の齊藤実朗師が謝辞と総括を述べ現地解散となった。



『第16回知事要請行動』

平成26年10月23日(金)、部落解放・人権政策確立要求埼玉県実行委員会は、「第16回知事要請行動」を実施した。初めに知事公館で行われた要請行動には要請団を代表して片岡明幸副会長が塩川修副知事へ94項目の要望書を手渡しした。次に県議会議長室を訪れ本木茂県議会議長に要望書を手渡して議会の協力を要請した。最後に「埼玉同宗連」の栗原英樹議長が閉会挨拶をした。



『人権政策確立要求第2次中央集会』

平成27年10月29日(木)、都内の日本消防会館にて開催された「人権政策確立要求第2次中央集会」に参加した。



開会行事で、組坂繁之実行委員会副会長ならびに中西啓實実行委員会会長(佐々木基文・高山真言宗社会人権局長が代読)が挨拶をした。その後、政党挨拶、基調講演の後、埼玉実行委員会は千代田区にある全国町村議員会館へ赴き要請行動を行った。(事務局・小池)

『狭山事件市民集会』

平成27年10月30日(金)に日比谷野外音楽堂で行われた狭山事件の再審を求める市民集会に参加した。

集会に先立って埼玉県の前段集会が行われ、備前島賢光前議長が挨拶をした。「埼玉同宗連」からは他に一條顕良師、藤井壽雄師が参加。狭山再審弁護団報告、石川一雄さん・早智子さんによる挨拶、大阪から駆けつけた精神科医の香山リカさんによるアピール、弁護団報告、基調提案、連帯アピール、市民の会ア



ピールなど2時間の集会のあと、再審と証拠開示を求めるデモ行進を実施。コースは日比谷公園西幸門―内幸町―数寄屋橋―東京駅八重洲口前―常盤橋公園。(事務局・小池)

『第35回埼玉人権フォーラム』

平成27年11月26日(木)、所沢市民文化センター・ミューズ「マキーホール」にて第35回埼玉人権フォーラムが「世界の人びとと共に人権運動の輪を広げ、平和と人権の21世紀を創造しよう」を集会テーマに開催された。「埼玉同宗連」からは65名が参加し、全体の参加者は900名を超えた。全体会では、さいたま市こころの健康センター所長の岡崎直人氏が「自殺の現状と防止策」と題して講演した。午後は5つの分科会に分かれ、第2分科会の「人権教育・啓発の推進」では、真言宗智山派の今井実道師から「宗教教団の人権啓発活動」が報告された。



特別展「慈光寺」―国宝 法華経
一品経を守り伝える古刹

埼玉県立歴史と民俗の博物館にて、会期10月10日～11月23日にて、「慈光寺」―国宝 法華経一品経を守り伝える古刹」と題して特別展が開催された。ときがわ町にある慈光寺（佐伯頼栄住職／天台）に伝来した法華経一品経の修理の終了を記念して全巻が公開された。展示された教典は藍染めの料紙に経文が金泥で書かれていたり、金粉などが用いられ煌びやかな装飾が印象的であった。



見学者の声

埼玉県立歴史と民俗の博物館の特別展「慈光寺」に行ってきました。ときがわ町の慈光寺には、板碑を見るために一度行ったことがありましたが、こんな山の中にお宝が一杯！と驚きました。「こんな山の中」でも最盛期には万坊もあった大寺院であったという記録が残されており、山の中といっても堂塔が沢山あったのです。今回展示された仏像も多種多様。役行者が前鬼後鬼を従えた像があったりして興味津々。国宝に指定されている数々の経典は、かなり手間をかけての修復を済ませたそう、展示会場前にその修復前の写真もありました。料紙の装飾や文字の美しさは、「こんな山の中」と思ったあの地が、仏教信仰と尊厳に満ちた地であったことを思い知らせてくれました。都合をつけて、また、ときがわ町まで行ってみたいです。（川名恵美さん・さいたま市）

『晩秋恒例』

法話と坐禅とライブ

平成27年11月21日（土）、金澤寺（宮寺守正住職／鳩山町／曹洞）で『晩秋恒例 法話と坐禅とライブ』が催された。初めに、



宮寺住職が永平寺修業時代、同安居だったという長野県興善寺住職の北村学爾師が

法話を行い、続いて、福島県常円寺住職、つるりん（鶴林）和尚こと阿部光裕師による復興支援活動と被災者の現状レポートと福島出身のシンガーソングライターのエイブさんによるセッションライブが行われた。チケット代は全額福島復興支援金として寄附された。参加者は僧俗合わせて120名。



『埼玉県寺院名簿』の訂正について（お詫び）

平成27年7月20日に発行致しました「埼玉県寺院名簿」に誤りがありましたので、下記の箇所につきまして修正をお願いいたします。関係者の皆様にご迷惑をおかけいたしましたこと、お詫び申し上げます。大変申し訳ございませんでした。

尚、寺院名簿記載内容につきまして、誤字・脱字等がございましたら、事務局までご一報くださるようお願い申し上げます。（電話048-861-2138）

寺院名	寺院番号	掲載頁	修正項目	誤	→	正
安福寺	06007	11	電話	048-541-1204	→	048-581-8482
平等院	16014	22			→	(寺院削除)
平等院	16070	23	住職名	亀谷 央輔	→	亀谷 寿央
			電話	なし	→	042-972-1685
観照院	46044	68	FAX	048-962-5699	→	048-962-5696
成就院	52014	72	住職名	小阪 秀和	→	小阪 秀史
			副住職名	なし	→	小阪 秀和



寺院が知っておきたい法律知識

宗教法人運営のための法律入門⑨

宗教法人と個人情報保護法—その3

宗教法人には個人情報保護法で「個人情報データベース」と定義されている多くの書類に様々な情報があります。そのような書類を取り扱うときの注意事項を述べてみます。

過去帳	利用目的を限定しておきます（例：年回忌のお知らせ）。回向供養等の問い合わせがあっても閲覧させてはいけません。たとえ税務署からの要請であっても閲覧させると秘密漏洩罪の対象となります。これについては昭和57年11月17日付で、法務省人権擁護局長から全日本仏教会宛に閲覧禁止の旨を全国の总会加盟寺院に徹底されるよう、要請がありました。どうしても内容を知らせなければならないときは、筆写して原本証明をしたものを渡します。
現在帳	利用目的を行事案内や信者訪問等に限定しておきます。本人の部分は閲覧可能です。不用なところはすみやかに削除廃棄しておきましょう。
信者名簿	利用目的を行事案内等に限定しておきます。本人の部分は閲覧可能です。不用なところはすみやかに削除廃棄しておきましょう。「寺報」などの機関誌等の発送を業者に委託するときは、秘密保持の契約をするなど、注意が必要です。
墓石簿	墓地埋葬法に関する法律第15条2項で、死者に関係あるものの閲覧を拒んではならないとされていますが、興信所等が家系図作成のためと称して過去帳と同様に閲覧を求めてくる場合がありますので、永代使用权者の同意を得ることが肝心です。
備付書類	宗教法人法第25条において、宗教法人が備え付けておかなければならないとされている書類です。これらは、信者その他の利害関係人から閲覧請求があり、「正当な利益」が確認されても「不当な目的」がある場合は閲覧を拒否できます。また、信者その他の利害関係人以外の者には見せる必要はありません。詳しくは本誌第603（10月）号、第604（11月）号をご覧ください。
寄付者名簿 年 回 表	公表することを事前に明示しておきます。
寺院名簿	宗派以外の者に利用させる場合は、事前にその旨を明示しておきます。宗派以外の者に渡さない場合は、目的外利用を禁止して第三者の利用を禁止する旨、名簿に明示しておきます。
団参や研修会等 の参加者名簿	利用目的を公表しておき、この目的以外には使用してはいけません。

全日本仏教会顧問弁護士 長谷川 正浩 監修

<p>(一財)埼玉県佛教会 副会長 真言宗智山派 三学院住職</p> <p>倉持 秀裕</p> <p>〒335-0001 蕨市北町3-2-14 電話 048-443-2125 FAX 048-443-2544</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会 副会長 所沢市 持明院住職</p> <p>木村 盛雄</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会 会長 曹洞宗 能仁寺 住職</p> <p>萩野 映明</p> <p>〒357-0063 飯能市飯能一三二二九 電話 〇四二一九七三二四二二八 FAX 〇四二一九七四一五三四六</p> <p>http://noninji.com</p>	<p>謹賀新年</p> <p>本年もよろしく お願い申し上げます</p> <p>合掌</p> 
<p>〒333-0051 さいたま市浦和区木太一四二二二</p> <p>天台宗 延命寺 住職 河野亮仙</p> <p>電話 〇四八 八八二一六三九〇 FAX 〇四八 八八五二三六六</p> <p>http://www.enmeiji.com</p>	<p>真言宗智山派 密藏院</p> <p>山口 正純</p> <p>川口市安行原二〇〇八 TEL 〇四八二九六一〇七七四</p>	<p>吞龍上人祈願所 十八檀林霊場会</p> <p>蓮馨寺 住職 桑原恒久</p> <p>〒350-0066 川越市連雀町七一 TEL 〇四九一二三二〇〇四三</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会 専務理事 水光山 大應寺 住職</p> <p>深谷 雅良</p> <p>〒354-0011 埼玉県富士見市水子一七六五 TEL 〇四九一二五二一五六一一 FAX 〇四九一二五二一五六〇一</p>
<p>一般財団法人埼玉県佛教会 理事 真言宗智山派 延命寺</p> <p>住職 津島英世</p> <p>〒342-0055 吉川市吉川一五四一 電話 〇四八九一八一五九〇</p>	<p>(一財)埼玉県佛教会理事 真宗大谷派了善寺</p> <p>住職 嵩海雄</p> <p>〒355-0036 東松山市下野本一〇七六 TEL 〇四九三二二一七三三九 FAX 〇四九三二二一九三三二</p>	<p>天台宗 東泉寺 住職 (一財)埼玉県佛教会 理事</p> <p>河野 亮玄</p> <p>〒330-0044 さいたま市浦和区瀬ヶ崎二一五一三 TEL 〇四八八八六一五二一四 FAX 〇四八八八六一四二二一 E-mail ryogenk4152@yahoo.co.jp HP http://www.urawa-tosenji.com/</p>	<p>真言宗豊山派</p> <p>観照院</p> <p>〒343-0851 越谷市七左町七一二七八 TEL 〇四八一九六一一五六九五 FAX 〇四八一九六一一五六九六 住職 鷺津憲道</p>
<p>川越市仏教会 最明寺</p> <p>会長 千田亮澄</p>	<p>川口佛教会</p> <p>会長 江連俊裕</p>	<p>蓮田市仏教会 会長 (一財)埼玉県佛教会 理事</p> <p>天台宗 慶福寺 住職</p> <p>関口 亮樹</p> <p>〒349-0115 蓮田市蓮田四一〇四 電話 〇四八(七六八)一五三七 FAX 〇四八(七六八)二二二八</p>	<p>一般財団法人埼玉県佛教会 理事 曹洞宗 金澤寺 住職</p> <p>宮寺 守正</p> <p> 〒350-0305 比企郡鳩山町泉井三三七六 電話 〇四九二一九六三三七二三</p> <p>http://kontakuji.com</p>

計報

事務局日誌

お悔やみ申し上げます。

平成27年 11月

4日 和光市壹鑑寺 (曹洞)
西澤 秀暁 師 (105歳)

5日 ▼第37回埼玉県佛教徒大会
(蓮田市・真浄寺)

19日 川越市善仲寺 (曹洞)
梅沢 一雄 師 (57歳)

8日 ▼「埼玉連」研修旅行 (北
陸/深谷専務理事、金子事
務局長、本間主事補/9
日)

24日 羽生市法性寺 (浄土)
酒井 勇幸 師 (84歳)

9日 ▼「解放同盟」三重県実行
委員会意見交換・視察交流
会 (三重県/小池主事補/
10日)

12月

2日 志木市大仙寺 (曹洞)
一滴 隆信 師 (76歳)

14日 ▼詐欺撲滅会議 (埼玉県警
本部/金子事務局長)
21日 ▼第1回関東甲信越静地区

宗教法人研修会 (東京)
22日 ▼「埼玉青」執行部会

23日 ▼「解放同盟」知事要請行
動 (金子事務局長)

28日 ▼「埼玉同宗連」現地研修
会 (千葉県/金子事務局長、
本間主事補、永堀)

11月

4日 ▼第18回わかる仏教講演会
(鴻巣/金子事務局長)

10日 ▼「埼玉青」写真

19日 ▼「解放同盟」埼玉県関係
課交渉 (あけぼのビル/本
間主事補)

26日 ▼「解放同盟」第35回人権
フォーラム

12月

1日 ▼第1回執行部会 (埼玉佛会
館)

8日 ▼「解放同盟」世界人権宣
言67周年記念東京集会 (日
本教育会館/金子事務局長、
永堀)

15日 ▼「埼玉青」執行部会

22日 ▼「埼玉青」写真

28日 ▼仕事納め

今後の予定

平成28年 1月

5日 ▼事務局仕事はじめ

7日 ▼「解放同盟」県連旗びらき
(ホテルマロウドイン熊谷)

15日 ▼「埼玉連」新年懇親会

18日 ▼第2回理事会/新年懇親
会

29日 ▼「埼玉保」新年懇親会

第31回埼玉県佛教幼児画展

日時 平成28年1月30日
1月31日
10~16時
13~17時

場所 さいたま市文化センター

編集後記

昨年で3年連続N.A.H.A.マラソン出場。雨天で体温低下から筋肉痙攣。リタイアという消極的意識と完走への積極的意識が混ざりあうアイデンティティの無さからのフィニッシュ!(鯉)

穂山教雄常務理事ご遷化

平成27年12月2日、常務理事の穂山教雄師(久喜市妙福寺・日蓮)が72歳でご遷化されました。穂山師は、平成6年に当会理事、平成14年に常務理事に就任されました。理事就任以来、21年の永きにわたり、当会事業の推進に貢献されました。